

## 第1回 那珂市自転車活用推進協議会 会議録

1 日時 令和元年12月17日(火) 午後1時30分～午後3時30分

2 場所 那珂市中央公民館1階 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

平田 輝満 委員(茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域 准教授)  
絹代 委員(サイクルライフナビゲーター)  
日向 涼子 委員(モデル/サイクリスト)  
東ヶ崎 利信 委員(茨城県サイクリング協会 理事)  
峯岸 行生 委員(グリーンサイクル・さいと 代表)  
石川 浩通 委員(那珂市商工会 青年部長)  
小林 大輔 委員(カミスガプロジェクト 代表)  
引田 克治 委員(住民代表(市内在住サイクリスト))  
鈴木 均 委員(鈴木輪業)  
國井 元耶 委員(木内酒造合資会社)  
宮野 尊晴 委員(磐城実業株式会社(なか健康センター))  
中村 浩 委員(茨城県政策企画部地域振興課 交流プロジェクト推進室長)  
石川 昭 委員(茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室長)  
齋藤 茂雄 委員(茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課長)  
武田 信弘 委員(茨城県那珂警察署 交通課長)

#### (2) 幹事

企画部部長 大森 信之  
市民生活部長 桧山 達男(市民協働課長 玉川 一雄 代理出席)  
保健福祉部長 川田 俊昭(健康推進課長 加藤 裕一 代理出席)  
産業部長 篠原 英二  
建設部長 中庭 康史

#### (3) 事務局

政策企画課: 課長 益子 学、課長補佐(総括) 篠原 広明  
課長補佐(政策企画グループ長) 橋本 芳彦、主幹 住谷 峻司

#### (4) 委託事業者

株式会社 AN計画工房 西垣 聡之、阿久津 裕子

### 4 欠席者

教育部長 高橋 秀貴

### 5 会議内容

#### (1) 開会

##### ○事務局(益子課長)

本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから第1回 那珂市 自転車活用推進協議会を開会いたします。

それでは、会議に先立ちまして、委員の委嘱について、ご案内いたします。

本来、市長より委嘱状をお渡しするところですが、時間の都合上、机の上に置かせていただいております。

なお、委員の任期につきましては、那珂市 自転車活用 推進協議会 設置要綱 第3条 第2項の規定により、2年以内としております。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは、まず始めに、那珂市 先崎市長よりご挨拶申し上げます。

## (2) 挨拶

### ○先崎市長

本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。

本来なら委嘱状を手渡しするべきところ、進行の都合上、お手元に置かせていただいたことご理解をいただきますようお願いします。

さて、健康志向というか、これだけモノが豊かになると望むのは健康であり、元気で長生きを目指すという時代になってきました。その中で自転車の活用は時代のポイントになっていると思います。私自身、県議会議員の頃、県議会で自転車をどう活用するか、茨城の魅力について自転車を活用してどう発信するか、議論してきました。

先日、日本で3つですが、ピワイチ、しまなみ、そしてつくば霞ヶ浦りんりんロードが、ナショナルサイクルルートに指定されました。心が踊るワクワクする出来事でした。関係者の皆さんも喜んだと思いますが、でもまだまだこれからだと思います。

那珂市もやっと自転車活用推進計画の策定に取り組み始めました。皆さんのお力をお借りしてより実効性のあるもの、意味のあるものにしていかなければならないと考えています。

自転車は健康づくりに役立つほか、地域の産業、心の健康にもつながります。

幅広い地域の魅力を発掘して発信できる可能性を持っていると思います。

私自身、本日ご出席されている東ヶ崎委員にお世話を頂き、先日、ハーフセンチュリーに参加し市内を自転車で走りましたが、とても気持ち良かったです。

レーシングスーツを着て素晴らしい自転車で走るのも勿論良いですが、広く考えた場合に、高齢者や小さなお子さん、お母さんなど、いろいろなレベルで楽しめるようにしたいと考えています。

田舎は公共交通が少なく、免許返納後の移動手段をどうするかが課題となっています。そのような中、電動アシスト自転車は大きなツールになっていると思います。そういうものを含めてサイクル文化を醸成していかなければいけないと考えています。

トップを走るのはレーシングスーツを着た方々かもしれませんが、地域社会を考えれば、すそ野の広いサイクル文化を作っていく必要があると考えています。

皆様には様々な面でお世話になります。関係者にも、庁内にも意気燃える仲間がいると思うと安心感、期待感が高まります。

委員の皆さんを中心に会議を盛り上げていければと思っています。那珂市は自転車活用に関しては少し出遅れていると感じますが、少し先を走れるように全員で盛り上げていきたいと考えています。

皆様、どうぞよろしく願いいたします。

## (3) 委員・事務局職員紹介

続きまして、「委員・事務局紹介」でございますが、大変恐縮ですが、お手元の委員名簿の順で、自己紹介をお願いいたします。

それでは、平田委員より、お願いします。

### ■委員 自己紹介

#### ○平田委員

茨城大学工学部の平田と申します。専門は土木工学の中でも都市計画や交通工学などを研究しています。自転車に関して研究論文は書いていませんが、これまで自治体の計画づくりに携わっています。そういった経験を生かしながらお手伝いが出来ればと思います。よろしく願いいたします。

#### ○絹代委員

サイクルライフナビゲーターの絹代です。自転車を中心に、もともとは自転車の心身への健康から始まった所だったんですけれども、今は自転車に関わるありとあらゆることを担当しております。先ほど市長のご挨拶にもありましたナショナルサイクルルートの選定委員も務めさせていただきましたし、国の自転車活用推進計画も有識者会議に入らせていただいております。

す。

茨城県で言えば、県の自転車活用推進委員も務めさせていただきまして、水郷つくばのサイクリング環境づくりの頃から参加させていただいております。

先程のお話にあったように、茨城はサイクルツーリズムと言う点では全国から注目されるような県となりました。

ただ、その中でも、霞ヶ浦りんりんロードに関しては、まだまだ地域の暮らしとか、地域の魅力とかが見えてくるというよりも、湖面の美しさやそういった部分のエリアですので、奥久慈の里山ヒルクライムルートにはかなり期待を寄せております。

ぜひ那珂市でも、この地域の魅力を皆さんに発信しながら、いい形でサイクルツーリズムと、また自転車がいろいろな良い面を活用して、皆さんに「よかったね」と言ってもらえるような自転車活用推進計画が作ればなと思っております。

精一杯務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○日向委員

日向涼子です。よろしくお願いいたします。

私自身はモデルを本業としておりまして、食事制限やダイエットで困っていた時に自転車と出会って、今は自転車にいろいろな形で携わっております。レースも出ますし、サイクリングもします。いろいろな形で携わらせていただいて、特に茨城はもともと好きで、よく個人的に訪れていたところなので、こうして皆さんと委員になれて光栄に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○東ヶ崎委員

東ヶ崎利信と申します。茨城県サイクリング協会理事として携わっております。

市長がおっしゃったように、那珂市でハーフセンチュリー茨城サイクリング大会を開催しております。同大会は、第1回目は常陸太田市で始まりましたが、会場を那珂市に移して今年で14年目を迎えました。大会自体は、今年で計34回目の開催を迎えました。

サイクリング協会としましても、組織を再編し、来年から「いばらきサイクリング協会」として活動を再開するところです。サイクリング協会の立場として、少しでもお手伝いできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○峯岸委員

ひたちなか市のグリーンサイクル・さいとの峰岸と申します。よろしくお願いいたします。

私自身、スポーツバイクが子供の頃から40数年自転車を趣味にやっています。

いわゆるのんびり走る方の人間でして、競技系は苦手としていますが、那珂市の今回の協議会に微力ながら協力させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○石川委員

那珂市商工会青年部の部長を務めております石川と申します。

青年部の目線からご意見・ご協力させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○小林委員

小林大輔と申します。

一般社団法人カミスガプロジェクトというところで、上菅谷駅前を中心に年5回、イベントをやっている団体の代表をやらせてもらっています。

何らかの形で携わらせていただきますので、よろしくお願いいたします。

#### ○引田委員

住民代表（市内在住サイクリスト）ということで委員を拝命しました。

3～11月頃までは週4～5日、自転車に乗っています。

今は寒くなってきたので、水曜日と週末に乗っています。自転車に乗る時間帯は朝を中心と

しておりまして、自転車に乗りまくっているという感じです。

この自転車活用推進協議会において新たな計画を作るということですので、サイクリストの立場から意見させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木委員

鈴木均でございます。

那珂市瓜連で自転車・バイクの販売をやっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○國井委員

木内酒造の國井と申します。よろしくお願いいたします。

仕事としては、主に飲食店の立ち上げなどをしていまして、水戸エクセルみなみの店舗や東京の4店舗立ち上げ等を行いました。

私は那珂市に住んでおりまして、中学生の頃からずっと市内を自転車で通学していました。そのような経験から、何かしらのお手伝いが出来ればと思っております。

よろしくお願いいたします。

○宮野委員

初めまして、磐城実業株式会社の宮野尊晴と申します。

市内のなか健康センターを運営しております。

このたび、こういった協議会に協力できるということで非常に光栄に思います。

私自身も3年前から自転車を始めておりまして、時間があるときは、自宅がある福島県のいわき市から、なか健康センターまで自転車通っております。

なか健康センターには、お風呂と広い駐車場もありますので、ハード面・ソフト面ともにフルに活用してご協力できればと思います。

よろしくお願いいたします。

○中村委員

茨城県の地域振興課の中村でございます。

現在、県で自転車活用を担当しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○石川委員

茨城県庁土木部の石川でございます。お世話になります。

現在、自転車関係の協議会ですと、笠間市と神栖市が始まっており、那珂市は、私どもが参加する3つ目の協議会でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○齋藤委員

茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課の齋藤と申します。

道路行政の現場から、意見させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○武田委員

那珂警察署交通課長の武田と申します。

自転車に係る交通安全、事故防止の観点からお力になればと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

■事務局職員 自己紹介

幹事・事務局を紹介いたします。

(司会が紹介：幹事→事務局)

最後に司会を務めます、政策企画課の益子でございます。よろしくお願いいたします。

また、当協議会でご審議いただく資料の作成等に携わっている関係者にも出席いただいております。AN計画工房の 西垣 聡之 様です。

その他、庁内プロジェクトチームの職員等も出席しております。よろしく願いいたします。

#### 4 講演「サイクルツーリズムを考える」(講師：日向 涼子委員)

- ・パワーポイントによる説明 (※資料配布)

#### 5 会長及び副会長の選任

- ・協議会設置要綱第4条第2項により会長は市長が指名  
→会長は平田委員に決定
- ・協議会設置要綱第4条第2項により副会長は会長が指名  
→副会長は宮野委員に決定

#### 6 協議内容

##### ○平田会長

皆さん、改めまして茨城大学の平田と申します。

ご指名いただきましたので、僭越ながら議長を務めさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

先程からサイクルツーリズムが話の中心になっていますが、そのための環境整備や安全教育、地域の魅力発信、魅力づくりなどが、より本質に関わる部分ですので多方面からご意見・ご協力をいただき、よりよい自転車活用推進計画を作れたら良いと思います。

それでは、早速、議事次第の6、協議内容に入ります。

協議事項の【1】～【3】を一括して事務局より説明いただき、その後、意見交換をお願いします。

##### ○事務局より資料説明

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 【1】自転車活用推進計画について(国・県の動向) | 【会議資料】(P.1～P.2)   |
| 【2】那珂市の自転車に関わる現状と課題      | 【会議資料】(P.3～P.17)  |
| 【3】那珂市自転車活用推進計画について      | 【会議資料】(P.18～P.21) |

#### <協議>

##### ○平田会長

3点説明いただきました。県の計画は策定済みであり、計画期間を2019-21年度の3年間としています。県の計画とどの程度整合性を図るかはまだ検討段階かもしれませんが、現状で那珂市との関係はどうなっているかご説明いただきたいと思います。

##### ○中村委員

今年、県の自転車活用推進計画を策定しましたが、4本柱で内容が盛り沢山となっており、中々、実施に繋げるのは難しいところです。

関係機関との調整がこと細かくありますが、一つずつ出来るところから始めており、3年間の短い期間でやれるところから進めているところです。

サイクルツーリズムについては、全県でツーリズムを進めていくということで、那珂市の関係でいくと、奥久慈ヒルクライムルート、走行空間整備、推進体制などが挙げられます。

時間はかかりますが、りんりんロードの沿線と違い、地域に自転車文化が中々根付いていない所に自転車の取組を進めていくため、現場の実態としては時間をかけて少しずつ、自転車活用の有用性を地域の方々にご理解をいただきながら、進めていきたいと思っております。

計画は書き上げましたが、総じて、具体的に移すとなるとそれぞれ色々な課題があると思っておりますので、一つずつ直面して乗り越えるしかないというのが進める中での率直な感想です。

#### ○平田会長

環境整備という意味で、道路にピクトグラムを描くといった整備でも道路整備にそこまで予算が多くついているわけではないので、急速には進んでいないと思いますが、指定されたルートでは、この間茨城空港に行った時も矢羽根が引かれていて、結構進んでいると感じました。優先順位をつけながら実施しているとは思いますが、県の整備の前に、那珂市が先行して進む可能性だってあるかもしれません。どちらかという地元が盛り上がり、県の計画・整備にもつながっていく順番が私としてはいいと思います。いずれにしても、3年という短い期間であるし、出だしの様子見ということかもしれませんが、協力して那珂市の計画推進も進めていきたいと思っています。

それでは、議題は3つ、どこからでも結構なので、ご意見をいただきたいと思っています。

現状についての質問や、計画策定上考慮すべきことなどのアドバイスでも結構です。

#### ○絹代委員

県と市の連携という話がありましたが、全国各地で計画作成が進められている中で、県が作るものと市が作るものでは、それぞれ性格が変わってくると思います。

市の方が、より実行的なものであり、市民の生活を見ながら、そこに合ったもの、目指すものを描いていくという点で、県の計画よりももっと具体的で地域に即したものになると思います。その中で既に策定の趣旨や方針がしっかり掲げられていますが、参考資料4を見る限りは、策定の趣旨が、サイクルツーリズムの推進による交流人口増加や地域の活性化を図るということで、サイクルツーリズムでいかに人を呼び込むか、地域を活性化するかに狙いがあると理解していいのかがまず1点目の質問です。

ただし、先ほど日向委員のお話にもあったとおり、その土地で自転車を活用していないところでサイクルツーリズムをうまくやろうとしても、全国の今の状況からいうとかなり不可能に近いと思います。その地域の方々が自転車に乗る、自転車の特徴などを理解しているとツーリズムで来る方のツボが分かるので、売れる商品も開発できるし、よりお金が落ちる取り組みをすることが出来るし、地域に受け入れてもらえると思います。地域の方に自転車に乗っていただくためのものも必要だと思います。目標1がサイクルツーリズムになっていて、その後は国の目標を汲みながら立てられていると思いますが、市民の方にどの程度乗っていただけるような取組をしていく意向があるのか。そういった方向性があるのか教えていただきたいと思いません。

また、ネットワーク計画という項目が既に掲げられていて、参考資料5にネットワーク検討とありますが、ネットワーク路線の検討にあたっての視点ということでよろしいでしょうか。

視点5のライドシェアへの対応や新しい自転車の使い方に対応したネットワーク、このライドシェアというのが分からなかったのですが、ネットワーク計画はお金も労力も時間もかかります。ネットワーク計画を国で示してから、中々、全国的に進んでいない状況であります。

県がネットワーク計画について掲げていますが、那珂市としてどの程度やるつもりでしょうか。かなり新しいことも言っているのですが、この視点5について教えていただきたいと思っています。

#### ○事務局

1つ目のツーリズム中心かどうかについてですが、たしかに策定方針の趣旨の最後のところにサイクルツーリズムの推進によるとありますが、前段を見ていただくと自転車活用の有用性などを広く市民に浸透させつつ、安全で快適な自転車の利用の環境整備を進めるということで、サイクルツーリズムを中心に考えていきたいとは思っていますが、市民への利用促進や環境整備もしっかりやっていきたいと考えています。

それぞれの割合については難しい部分もありますが、その辺はこの協議会の意見も踏まえて考えていきたいと思っています。当然、サイクルツーリズムだけでなく、地元の方への利用促進も考えていきたいと思っています。

また、ネットワーク検討の視点ですが、現時点での案を思いつくまま出しているものです。施策目標に掲げるものに関連する広域サイクリングルートと、那珂市内の地域資源を結びつけて連携したネットワーク計画が大切だと思います。菅谷地区という上菅谷駅周辺のエリア（市街化区域）はインフラも整っており、交通の利便性も良い地域であることから、今後のコンパ

クトシティなども視野に入れて考えたいと思います。

○絹代委員

視点5について教えていただきたいと思います。  
ライドシェアとは何なのでしょう。

○事務局

ライドシェアはシェアサイクルのようなものです。  
車を使わず、自転車をシェアして使用するという事です。

○絹代委員

シェアサイクルも今後検討していくということでよろしいでしょうか。

○事務局

はい。

○平田会長

はじめの挨拶で申し上げましたが、県の計画でサイクルツーリズムが掲げられていることから、引っ張られる部分もあると思いますが、県もサイクルツーリズムだけではありません。どちらかというと、先に市民が自転車に乗ることを楽しめる文化が醸成されるようなところを念頭に置いて進めていけたらいいと思っています。

資料1のP.17に課題がありますが、1、2、3は優先順位でないと事前に伺いました。

日常生活や安全な利用がはじめにあり、ここができて、はじめて外からの観光客をお迎えするとか、結果的に健康に繋がると思います。そういう順序ではないかと個人的には思っています。これからのプロジェクトチームの検討の中で意見交換して方向性を共有していただきたいと思っています。ちなみにこの策定方針は確定ではなく案ということでよろしいでしょうか。

○事務局

策定方針については、市議会には報告はしていますが、当然ながら今後変わっても構わないと考えています。

○絹代委員

資料1のP.17に安全な自転車利用とありますが、「中高生が安全に通学できる環境整備が必要」など、自転車に乗る世代が提案されてしまっているように見えるのが少し気になりました。高齢者は健康長寿、中高生は事故なしに、というふうに見えてしまうので、できれば幅広い年代の方が、環境問題もありますし、自転車を使える方は使っていく社会に変わっていくような取り組みができたらと思います。

平成28年度のアンケート結果についても、私が予想していたよりも自転車に乗る方が多い印象です。

色々な土地で自転車関係のことに取り組んでいますが、いわゆる車社会の地域で自転車に乗っている人に挙手を求めると、高校以来乗っていない方が大半です。

自転車に乗っている人はほとんどいません。その中で現状、那珂市では3割程度、年代が上がるほど自転車を日常的に使っている人が増えているようです。資料としては頂いていません、那珂市地域公共交通連携計画の内容を拝見したところ、40、50、60、70代の方が複数回答で3つ交通手段を挙げると、その中に（日常の移動手段で複数回答だが）自転車という回答が3割程度ありました。

私は県内では石岡市の計画も携わりましたが、石岡市では自転車に乗っている人を見つけるのが大変なくらい、学校を卒業したら一切乗らないという人ばかりでした。今現在、自転車を利用している人がいるのであれば、ちょっとした環境の改善や提案など、先ほどからご提案のあった電動アシスト自転車や転びにくい三輪のものなど、使い方が変わってやりやすい環境にあると感じました。

そうした中で安全な自転車利用の啓発が課題となりますが、どの地域も免許返納後に突然高齢者が車から自転車に乗り換えることへの恐怖が大きな課題となっています。

85歳を過ぎて自動車の運転が危なくなってきたから自転車に乗り換えるとなると大事故を起こす可能性があります。そのため、いろいろな地域で、50～60代などもっと早いうちから日常的に自転車を使って、自力で動けるシニア世代を迎えるようにいかに誘導するかが大きな課題となっています。

資料を見ると高齢者の割合が増えていますので、そういった部分も視点に入れて、今現在乗っている人も多いため早い段階からルールを伝えること、安全に乗れるようにすることが重要だと思います。また、ドライバーに自転車と共存する走り方を伝えるのもものすごく時間もかかり大変なので、課題3の安全面を分厚くした方がいいと思います。そういった意味では、那珂市は自転車を使ってもらえる可能性の高いエリアにあると思います。

最後に1点、中学生にヘルメットを無償配布するとありますが、配布されているのは、いわゆるスクール用なのか、もう少し軽量の通気孔のあるタイプなのでしょうか。というのも、日向委員の講演にもあったとおり、愛媛県はヘルメット着用率100%とありましたが、なぜ100%着用しているかという、理由は自分たちで被りたいヘルメットを選んでいるからです。格好良い形の、制服に映えるタイプのものを選んでいるので、高校生でも被っています。その部分がないと、今時の子はおしゃれだし、情報もたくさん持っており、通気性の悪い白いヘルメットを強制的にかぶるよう指導したとしてもヘルメットを嫌いになっていくだけなので、その部分も併せて考えてもらえればと思います。

#### ○平田会長

まだ、たたき台で推敲されていませんが、そういった意識はあると思います。

#### ○石川（昭）委員

交通事故分布エリアがあるが、資料の基となっているエリア、県管理の118号や349号など、ここがルートになるかどうかは別としても、自転車対自転車や、対自動車、対人など、事故の原因を分析したほうが良いと思います。事故が集中している所が何箇所かあるので、そういう箇所の改善ができないかを確認して欲しいと思います。何か対策が必要であれば、県の方でも動かないといけません。

現在、県では4ルートのうち3ルートをメインで整備を始めています。国の交付金を活用しながら、整備を進めていますが、進めていく中で課題もあります。

路面標示をするうえで、そもそも路面の状態が悪い、グレーチングの目が粗くタイヤが挟まってしまうなどの課題を勘案してルート設定していただきたいと思います。ナショナルサイクルートでも言っていましたが、交通量が多い（1万台/日以上）ところは不適だと思えます。どうしても通すとなると自転車専用道があれば理想ですがそこまでは難しいと思うので、迂回路の設定が必要となります。交通量も考えてルートを設定していただきたいと思います。

#### ○平田会長

データについてはどの市でも話題になりますが、一つ一つ見ていくには県警の協力がありません。全て見るのは難しいかもしれませんが、事故の形態について、市民の意識を変える意味でも一つ一つの形態、もしくは集計したデータなどを示していただくことは可能でしょうか。

#### ○武田委員

交通白書の細かいデータはありませんが、総務課では歩行者対自転車であったり、自動車対自転車であったりという細かいデータを持っているので、細かく集計することは可能だと思います。細かい手作業になると思うができないことはないと思います。なお、私の認識では自転車の事故というのは、車と自転車の事故が大半だと思います。

#### ○平田会長

過去の別の検討会議でもそうでしたが、自転車が歩道を走っていて交差点で車とぶつかると

か、逆走している場合に車から見えずにひかれるとか、事故率に直した時に、自転車が左側を走るといふ交通ルールを守っていない時の事故率が高いと科学的にも検証されています。おそらく那珂市でも同じような傾向が出るのではないのでしょうか。

水戸市ではこの傾向が顕著に表れました。水戸市のある幹線道路の事故は、ほとんどの場合自転車が歩道を走っている、もしくは車道を逆走している場合でした。

那珂市の事故もその形態というか、交通ルールの問題、かつ車道を走行できない環境に起因する事故などを改善していかないとはいけません。共通認識を持つためにも事故例は大事なので、可能な範囲でご協力いただきたいと思ひます。

#### ○峯岸委員

数字やデータに残る事故だけでなく、もっと怖いのはヒヤッとした経験だと思ひます。これは数字やデータに残らないものです。それを、例えば那珂市やその周辺の趣味で自転車に乗っている人の生の声も吸い上げて、あそこの道は路肩が狭く危ないなどの情報収集をしていただきたいと思ひます。

自分も那珂市内のある道路で路肩を走っていて大型に轆かれそうになった経験があります。そういう情報や口コミなども集めたほうがいいのではないのでしょうか。

#### ○平田会長

ヒヤリ、ハッとした経験についてはぜひ集めていただきたいと思ひます。

実際に自転車に乗っている方の意見が欲しいところですが、皆さんにもぜひご協力いただければと思ひます。住民代表の引田委員は週に4回ほど乗られるとのことですが、那珂市の自転車利用者が本当に多いか分かりませんが、普段自転車に乗っていて、日常的に乗っている人が多い印象があるか、もしくは先程の安全性に関わるところ、道路の良し悪しの感想などがあればご意見をお伺いしたいと思ひます。

#### ○引田委員

朝2時間も自転車に乗れば、60km程度の距離を走れることから、那珂市を超えて水戸市・東海村・日立市・笠間市でも行くことができますので、那珂市の中だけで計画をまとめようとするのは無理があるのではないかとと思ひます。

電車で那珂市に来て、自転車に乗る人がどれくらいいるのか疑問でして、大概の人はマイカーまたは自走で来て乗ると思ひます。私が思うには、マイカーで来てもらうにあたって必要となる駐車場やトイレ等を整備した拠点を何箇所もつくり、那珂市から他所に行つて戻つて来てもらう、その間に那珂市の名物や名所等を見てもらつてお金を使つてもらうルートを計画に掲げた方がよいと思ひます。

#### ○平田会長

引田委員は普段から那珂市を拠点にあらゆる方面に地域を超えて楽しまれている場合が多いということですね。市を超えた連携については、県の計画でも検討しましたが、通勤・通学など日常利用での検討でした。

資料の課題2にありましたが、那珂市はひたちなか市や水戸市などに通う人が多いことから、水戸市・ひたちなか市との連携が必要だと思ひます。周辺市町村との連携は、水戸市は既に計画を策定していますが、まだ策定していないひたちなか市等の周辺市町村と今のうちから意見交換しておくことは必要だと思ひます。

#### ○東ヶ崎委員

市内の方に自転車に乗ってもらうことが目的の一つとしてありますが、自転車の認知度、サイクリングのハードルを下げる意味合いで、ママチャリでもサイクリングできるというふうレベルを下げるというのはいかがでしょうか。10~15キロで走れる大会、少人数(10人程度)の大会を頻繁に開いて認知度を高めるというものです。

県内でもそうですが、5~6人くらいでまとまって自転車で行くと、車から邪魔扱ひされたり、クラクションを鳴らされたりします。自分達にもそのような経験があります。認知度を上げるためにも、そういう大会を開くことによって、自転車に乗る方も増えるかもしれない

し、車からの認知度を上げることに繋がると思います。

○平田会長

ハード整備も重要ですが、自転車文化が根付いていない地域では、自転車のイベントなどソフト面も重要です。

私は7年前に東京から茨城に赴任してきましたが、那珂市のカミスガプロジェクトに驚き、感銘を受けました。映画の完成度、質の高さに驚きました。移動商店街などのイベントも凄いなと思いました。

今日は会議に来る前に1時間半くらい市街地を回りましたが、お店もないし、お昼ご飯を食べる所を探すのも難しい。そういう部分を補うイベントを立ち上げるなど、そういう土壌があり、市民の力はかなり強いと思います。自転車についても市民の自転車利用を促進する可能性はありますか。今の時点でどうお考えでしょうか。

○小林委員

私自身、立ち上げからずっと関わっており、今8年目を迎えたところです。

最初は近所の人も車で来る割合が多く、駐車場が問題となっていました。

しかしながら、最近は親子で自転車で来る人も多いと思います。会場周辺にお住いの方は自転車で行ったほうが近くまで行けるという認識があり、会場近くの方はそういった意識になってきたと感じています。昔は自転車で来る方は少なかったと思います。

○平田会長

駐車場が遠いから、自転車で行く人もいると思います。カミスガプロジェクトがきっかけで自転車を買った人や乗る人がいるかもしれません。

かなり定着している大きなイベントに絡めて、全市的に広げていくこともいいと思います。ソフト的なイベントで市民の利用を促す環境は揃っています。

なか健康センターはサイクリングと親和性が高そうですが、いかがでしょうか。

○宮野副会長

週末はなか健康センターの駐車場に自転車を停めて、健康センターを発着点にサイクリングされる方も多いと思います。

なか健康センターを宣伝するわけではないですが、駐車場が広く、トイレもありますので、使っていただいても問題ありません。フルに活用していただければと思います。

○平田会長

最近では、学生も健康センターへ行きます。温泉に集まるのは悪くないと思います。地元で有名な木内酒造はいかがでしょう。お酒を飲んで運転はできませんが、こういう場合はどうなるのでしょうか。

○國井委員

自転車で来るお客様もいます。お酒ではなく、併設の蕎麦屋に来ますが、お土産としてお酒を買っていきます。

今年の夏、自転車向けのツアーで来たお客様（2～30台）がいて、飲食・お買い物していただきました。弊社は県道31号沿いにあり、道が細くなったりして自転車を通る道としてはあまり良くありません。小石もあり、弊社の社長も自転車に乗ってこの道を走行中に小石で転倒して骨折しました。

また、毎朝、那珂三中の生徒達が車とギリギリのところをすれ違っています。自分も出勤の時に危ないと感じています。

○平田会長

ネットワーク路線の選定において、路線の維持管理状態など、安全に直結する部分は重要だと思います。

重要な路線における安全性の課題は放置できませんが、すべて一度に解消することも難しいので、安全に走れる路線を少しずつ増やしていければと考えています。

那珂市として、長期計画で優先路線の整備の意思表示をしないと進まないの、事故データやローカルな情報の収集をしつつ路線選定を行うことが必要だと思います。

地元詳しい市内のプロジェクトチームの意見が重要だと思います。世界的に有名な木内酒造への来客は今後も増えることが見込まれますので、そこに繋がる県道 31 号は重要な路線かもしれないと思います。

#### ○石川（浩）委員

ネットワーク路線について、参考資料 6 に様々なルートがありますが、皆様にお聞きしたいのは自転車に乗っているかということです。自分が乗ってみたいと危ないところ、良いところが分かりません。私も高校生の頃までは自転車に乗っていましたが、今はほとんど自転車に乗っていません。皆で自転車に乗ってみたいと課題等が見えてこないと感じます。道路の整備の難しさは多々あるかとは思いますが、ブルーラインを引くと、自動車に対しても注意喚起となることから、多少、危険が減るかなと思いますので、早く整備されればと思います。

#### ○平田会長

水戸市の自転車計画策定では、委員で候補路線を試走しました。県計画の際も県庁の方々が実際に走っています。

地味ですが、非常に重要なことで、やみくもに選定してもだめで、やって効果のある路線から選定すべきだと思います。ブルーラインは、自転車に向けてのメッセージでもあるし、自動車側の意識も変えるので教育的効果もあると思います。

路線選定と実走は大事なことだと思います。

#### ○日向委員

お酒との親和性という話がありましたが、その場合、宿泊施設が重要だと思います。泊まることで自転車だけでない楽しみ方が出来ると思います。

茨城では、日帰りのサイクリストが多いと思いますが、泊まることで翌日は各種体験や寺院巡りなど、違う楽しみ方ができるし、夜はお酒も楽しめます。

宿泊は、那珂市だけでなく、茨城県全体にとってお金を落としてもらおうという意味で重要だと思います。私が那珂市に観光に来て宿泊施設を探したときに、やはり水戸に戻ろうかと思ってしまいます。水戸市はビジネスホテルが多いが、那珂市ならではの民泊を進めるなど、住みやすさをアピールする意味でも民泊との連携は楽しめると思います。

#### ○平田会長

コンテンツを考える人が多いとすると、昔からある文化や生活風景などの地域の魅力は、その土地での楽しみの一つです。旅行者は土地の人とのふれあいなどに喜びを感じます。いわゆる普通の観光から一つ超えたところの深み、大衆受けを目指すというよりは少ないけれどもダイブな人をキャッチできるコンテンツを多方面で出来ると良いと思います。

#### ○齋藤委員

道路の整備はどうしても用地の協力が必要で、お金と時間、人の理解が得られないと進みません。この計画に道路の整備が出ると実現しづらくなるのではと感じます。

矢羽根やブルーラインを実際に引くにしても、木内酒造の前などは人家が連担しており、歩道はあるものの幅が狭く、車と自転車が接近しすぎて描きづらいと思います。そこに積極的に自転車を呼び込もうとすること自体、良いか、悪いか現場としてジレンマを持っています。

#### ○平田会長

そういう箇所が多くて辛いところです。だからといって自転車が歩道を走るのもおかしいと思います。例えば、水戸市は車に踏まれることを前提に、クルマ運転者に対して自転車に注意を向けてもらうためにもピクトを整備しています

実際に通学路に指定されているなら、学生の安全を確保するためにピクトなどで対処しないといけませんし、広域から観光客を誘導してくるなら安全な代替路の情報提供のほうがよいかもしれません。

サイクルツーリズムについては、安全な走行環境創出を前提に、その可能性をとことん追求してやっていただきたいと思います。

会議資料の5ページにあるように、上菅谷駅乗降客数が増えているのは、人口減少の時代にあつてかなり珍しい現象だと思えます。上菅谷を中心に新しい居住者が増えてきており、土地があつて駅の周りに一戸建てが建ち、新しい子育て世代が増えている状況ということですが、長期的に考えれば、那珂市も水戸市も人口が減少していく中で、都市計画マスタープランでもコンパクトシティを追求していますが、上菅谷という中心の市街化区域に人口が集まる傾向にあります。

車に必ずしも依存していないライフスタイルである可能性もあり、駅の近くに住んでいる方はそういう方が多いと思います。

那珂市全域の自転車の利用環境も重要だと思えますが、日常生活の上菅谷という中心地区にこれからは集中投資していかないと那珂市が沈んでしまうと思えますので、不公平な投資となるかもしれませんが、一定程度はやむを得ないと思えます。中心地の魅力として、自動車がなくとも、徒歩・自転車で快適に過ごせる雰囲気をつくるのは重要だと思えます。

都市計画マスタープランにおいても、歩いて暮らせるまちづくりは昔から掲げています。暗渠にしてある歩行者のための遊歩道（両宮遊歩道）も、延長にして約1km程度、図書館の前を通っていますが、あれは良いと思えます。自転車で走行している人もいます。道幅も十分な幅がありますし、もっと植栽も植えて綺麗にして、日常での散歩や駅へのアクセスや自転車の回遊路にできると魅力も出ると思えますし、自転車を日常的に使いたくなると思えます。

上菅谷に人が集まってきているのが事実なのであれば、それに合うような自転車の使い方を検討すべきだと思います。都市づくりの視点で自転車を生かしてもらおうということです。上菅谷特定の自転車活用プロジェクトとして考えるといいのではないのでしょうか。

ネットワークの視点の決め方はもっと整理した方が良いと思えますが、外から年間1万人の方に来てもらうよりも、5、6万人の市民が、週に1度は自転車を使う方が、はるかに利用者数が増えます。元々国の自転車推進計画の一番の目的は、過度な自動車利用を減らす点にあります。市役所職員が自転車で通勤するなどの動きを市内全域で広げていき、那珂市に来ると自転車利用者が多いという印象を来訪者に与えることは強いアピールになると思えます。

那珂市の面積的にも自転車活用を進めやすいと思えますし、水戸市やひたちなか市にも自転車で行きやすいと思えます。レジャー＋日常使いを促進する舞台は整っていると感じます。レジャーと日常使いを分けて考えた上で、両面から考えると持続可能性が高いと感じました。

今日は結論を出すというよりも、次回のたたき台を作る上での今後の検討の視点づくりが主題ですので、他に意見がなければ、その他について事務局よりお願いします。

#### 【4】その他

##### ○事務局

現在、プロジェクトチーム及びオブザーバーのサイクリストの方々にご協力いただき、那珂市内のレジャーの部分で、周遊サイクリングルート案の検討を進めています。

参考資料6に周遊ルート案の図面がありますが、現状、那珂市内においてはサイクリングルートというものはない状況ですので、目的別に市内を周遊できるルートや、近隣市町村へ繋がるルート、ポタリングや駅を発着点とするルート等、様々な視点からルート案を検討した中で現地試走を含めて検証を踏まえて、那珂市の魅力的な地域資源とサイクリングを上手く結びつけるルート案を選定し、次回の協議会でお示ししたいと思えます。

##### ○平田会長

周遊ルートを設定するべきかも含めてご意見があればお伺いしたいと思います。

##### ○石川（昭）委員

周遊ルートの案がたくさんありますが、交通安全系の通勤・通学ルートも設定すると良いと

思います。なぜかという、路線整備については、交付金を活用して進めることになると思いますが、交通安全系の通勤・通学ルートが含まれていないと、交付金の申請が通らないことから必ず設定していただきたいと思います。また、全部を整備すると、距離にして何kmになるのか、優先順位もあると思いますので、交通安全系とバランスよく検討していただきたいと思います。

○平田会長

国のガイドラインには色々な検討の視点があり、交通安全等もありますが、通常やることを入れないと補助金がもらえないということもあります。

市として何を指すかの大方針が共有できていないので、どういうコンセプトで進めていくかを共有しないといけないと思います。よくご検討いただければと思います。

○事務局

今回は、あくまで周遊ルートのお示ししたものです。

ネットワーク計画については、菅谷周辺の日常使いも位置付けていきたいと思っています。

○平田会長

堤防ルート、那珂川と久慈川に挟まれています、県のネットワーク計画では那珂市を避けるように2つ3つの広域サイクリングルート等が設定されています。

那珂市は、ハート形の可愛い形をしています、近くには県のネットワーク路線があり、2つの河川に挟まれています。個人的にも河川は気持ちいいと思います。日立市の久慈川のところは良いと思います。それらが繋がっていくと、近隣の方もレジャー用途で利用すると思いますので、ご検討をいただければと思います。

○先崎市長

私自身もハーフセンチュリーで久慈川の堤防の上を走りましたが、並列で安全に走ることができました。安全に走れる空間は、非常に魅力的だと思います。

那珂川、久慈川を有効に活用し、安全に走れる空間を創出できればと思います。

安全に走れる所も慎重に考えつつ、那珂市の魅力を最大限に発信していければと思います。

○平田会長

計画を作る段階でいかに市民に関わってもらうか、一緒に考えてもらうのが地元の体制を作る上でも非常に重要です。作った後に地元はどう関わってもらうのか、そこが日本は弱いので、計画を作って終わりになってしまいます。

可能な範囲で計画をつくっている過程を市民に見せながら中身にも市民の意見を反映しながら進めていくと良いのではないかと思います。

それでは、協議が終了したので進行を事務局にお返しします。

7 閉会

○事務局

長時間にわたり慎重なご審議ありがとうございました。

以上をもちまして、第1回 那珂市 自転車活用 推進協議会を終了いたします。

なお、第2回協議会は、令和2年2月に開催を予定しております。日程等の詳細が決まりましたら、改めてご連絡いたしますので、よろしく願いいたします。

本日は、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

以上